

—基礎研究と臨床の融合— 第56回総会の概要決まる

第56回日本平滑筋学会総会は東海大学医学部・医学科・内科学系・消化器内科学教授 峯 徹哉会長のもと、来る8月6日-8日の日程で、横浜市にて開催されます。会長に抱負を伺いました。

第56回日本平滑筋学会開催に向けて

峯 徹哉



平成26年8月6日、7日、8日に、新横浜プリンスホテルで第56回日本平滑筋学会が開催されます。これもひとえに理事長を含む役員の方の先生方あるいは会員の先生方のお陰と考えております。日本平滑筋学会は、単一の臓器だけでなく様々な臓器における平滑筋研究という課題に対して基礎および臨床の研究者が一堂に会して横断的な討論を交わせる学会です。生体機能の解明はもとより病態解明のための新たな診断検査法や治療法の開発を目指して、基礎、臨床の多分野の研究者に活動の場を提供して参りました。年一回開催されます総会では、基礎および臨床の研究者による横断的な研究の発表と様々な討論が行われ、本総会の成果が平滑筋研究の発展に大きく貢献して参りました。第56回日本平滑筋学会総会のテーマは「平滑筋における基礎研究と臨床の融合」とし、シンポジウムとしては、まず「括約筋関連シンポジウム」を企画させて頂きました。今後の日本平滑筋学会を担ってゆく若手の研究者またその予備軍による「若手の会シンポジウム」を開催し、将来の発展に向けての継続的な企画として参りたいと思ひ、このシンポジウムを企画させていただきました。この学会は基礎学者と臨床家が一堂に集まる学会であり、他にある専門疾患の学会とは全く異なるものです。しかも、発表していただく基礎学者の研究テーマも様々であり、臨床家の専門もかなり異なり、興味ある発表が多く存在します。唯一共通しているのは平滑筋の研究についての議論を戦わせるという1点です。このように縦糸と横糸が混じり合っている学会であります。色々な方向性を見つけようと考えて、あえて括約筋関連シンポジウムを設けました。今までにはなかった主題と思ひます。栗山賞受賞講演も今回の学会で最後になります。しかし、本学会は若手のシンポジウムなどを引き続き開催しながら、若手による研究を推進していこうと考えています。これらを継続することにより、日本の医学の発展にも繋がると思われます。また最近、日本の全ての学会でグローバル化が打ち出されていますが、この学会は10年前から栗山賞を作り、韓国と繋がりを築き、いち早く国際化を考えてきた学会です。今後とも更に学会の発展を考えながらやっていこうと思ひています。

総会概要(予定)

日程:

8月6日 午後:委員会、理事会、評議員会、拡大プログラム委員会

8月7日 終日:学術プログラム、総会、会員懇親会

8月8日 午前・午後:学術プログラム、優秀演題賞表彰

参加費: 一般会員 10,000円 臨床研修医・学生 5,000円

懇親会費: 一般会員 4,000円 臨床研修医・学生 2,000円

会場アクセス・プログラム等の詳細は、第56回総会ホームページ

<http://accessbrain.co.jp/heikatsukin56/>をご覧ください。

発行所: 日本平滑筋学会事務局
〒701-0192 倉敷市松島 577
川崎医科大学消化管内科学
TEL:086-462-1111
FAX:086-462-1199
E-mail: jsmr-adm@umin.ac.jp
HP: <http://www.jssmr.jp>
発行責任者: 春間 賢
編集者: 高木 都

Contents page

| | | |
|------------------------|------|---|
| *第56回日本平滑筋学会開催に向けて | 峯 徹哉 | 1 |
| *会員計報 | | 1 |
| *入会のお誘い | | 1 |
| *第55回総会を終えて | 2-3 | |
| 第55回日本平滑筋学会総会を主催して | 高井 章 | |
| 優秀演題賞受賞者の声 | 森 大祐 | |
| 理事会・評議員会報告 | 楠 裕明 | |
| *第10回栗山 照賞決まる | | 3 |
| *第9回栗山 照賞を受賞して | 山村 彩 | 3 |
| *若手の会設立シンポジウムを終えて | | 4 |
| *第56回総会・若手の会シンポジウムについて | | 4 |

会員計報
謹んでお悔やみ申し上げます。

市川 三太先生
(名誉会員) 2013/7/9

粕谷 豊先生
(名誉会員) 2014/5/26

日本平滑筋学会へご入会を

本会は平滑筋に関わる基礎・臨床研究者が集う日本医学学会所属学会です。機関誌 Journal of Smooth Muscle Research は“IF 相当値”が3前後で国際的にも評価されています。学術集会では優秀発表を学会賞として表彰しています。皆様のご入会をお待ち申し上げます

(E-mail: jsmr-adm@umin.ac.jp)

第 55 回日本平滑筋総会を主催して

高井 章 (旭川医科大学・生理学講座・自律機能分野)

去る 2013 年 8 月 6 日から 8 日にかけて、第 55 回日本平滑筋学会を旭川市大雪クリスタルホールにおいて主催させていただきました。北海道での総会開催は、第 22 回 (1980 年 6 月 11 日-12 日; 宮崎英策会長 / 札幌医大)以来、33 年ぶり 2 回目。前回から 1/3 世紀が過ぎています。そのあいだの平滑筋研究の進歩と方法論的な変遷に思いをはせながら、本総会のテーマは「平滑筋研究におけるミクロとマクロの視点」としました。

評議員懇親会(8 月 6 日)は、春間賢理事長、本郷道夫元理事長、羽生信義前会長ほか 35 名の理事、評議員のご臨席のもと、会場内リセプションルームで開宴。旭川医科大学の吉田晃敏学長にご挨拶いただきました。

学術集会(第 2-3 日)は総計 75 演題からなる充実したプログラムでの開催を実現することができました。

特別講演は、J Smooth Muscle Res の Editor の一人である Prof Michael P. Walsh (Calgary, Canada)に御願いました。血管平滑筋におけるミオシン軽鎖二重リン酸化の調節的意義について基礎・臨床応用に関し歴史的背景と最新情報を織込んだお話をいただきました。

2 件の企画シンポジウム、「ホスホイノシチド代謝に関連した平滑筋機能制御:最近の研究の動向」(オーガナイザ: 井上隆司先生 / 福岡大)と「尿路系平滑筋の基礎と臨床」(オーガナイザ: 橋谷光先生 / 名市大 & 柿崎秀宏先生 / 旭川医大)は、いずれも当該分野の最前線の話からなる講演の連続で、フロアとのディスカッションも大いに盛りあがりしました。

漢方シンポジウム(オーガナイザ: 柴田近先生 / 東北大 & 楠裕明先生 / 川崎医大)も、各種漢方薬の消化管運動に対する作用の基礎と臨床応用に関する、いずれも示唆に富んだ 6 演題の構成でした。

教育セミナーの第一部「平滑筋研究法の発達と将来への展望」(司会: 山本喜通先生 / 名市大)では、基礎分野で長らく活躍を続けておられる高木都先生(奈良県立医大)と堀正敏先生(東大)が、総会テーマに関する歴史と将来展望を織込んだ演題でお話してくださいました。中田浩二先生(慈恵医大)にオーガナイズをお願いした第二部「消化管運動機能異常の病態への実践的アプローチ:すぐに役立つ手技とコツ」(司会: 羽生信義先生 / 町田市民病院)は、臨床応用に直結したわかりやすく密度の濃い 4 演題の構成でした。

集会第一日終了後、リセプションルームでの全体懇親会は参加者が 100 名を超えました。会員間の親睦を深める思い出づかい会となりました。

集会第二日午前中、「栗山熙賞」(開設 2005 年)の受賞者講演 2 演題は、いずれも、国際誌に掲載された受賞論文の内容を紹介する質の高い内容でした。

「優秀演題賞候補講演」(40 歳以下の会員対象)も例年どおり募集しました。今年度は 14 件という昨年度の 10 件をも上回る多くの応募があり激戦となりました。集会両日にまたがる応募者講演のあと、本郷道夫先生を委員長とする 9 名の委員による厳正な選考により優秀演題 3 件を選出、閉会式で表彰しました。

学術集会の掉尾を飾ったのは、前年度の総会のあと発足した「若手の会」の設立メンバーによる自主企画シンポジウム「若手研究者から平滑筋研究をつなぐ」でした。気鋭のメンバー 6 名による活気あふれるシンポジウムで、本学会の将来の発展に向けた新たな試みは上々のすべりだしを果たしました。

さて、前号での「ご挨拶」でも書きましたが、33 年前の総会での口頭発表が私にとっての平滑筋学会デビューでした。北海道での第 2 回目の総会を旭川でお世話させていただいたことを、とりわけ光栄で名誉なことと感じております。皆様のあたたかいご協力により、また、さいわいにもおおむね好天にも恵まれ、盛会裏に総会を終えることができました。ここにあらためて厚く御礼申し上げます。

【御案内】 総会期間中に事務局スタッフが撮影した写真を zip ファイルにまとめたものを総会 HP サイトにアップロードしております。どうぞこちらをご覧ください。 <http://jssmr.asahikawamed.ac.jp/PhotosURLs.pdf>

優秀演題賞受賞の喜びの声

第 56 回日本平滑筋学会総会で優秀演題賞に選ばれた東京大学・森先生から受賞コメントを頂戴いたしました。

この度、第 55 回日本平滑筋学会総会にて優秀演題賞をいただきました、東京大学大学院獣医薬理学教室の森大祐です。私は大学学部生のころに消化管平滑筋に関する研究を始めてからずっと平滑筋と関わりを持ってきたため、本学会で優秀演題賞をいただけたことは大変うれしく存じます。これを励みに、今後も研究者として精進したいと思います。

第 55 回日本平滑筋学会総会 理事会・評議員会報告

日本平滑筋学会事務局 楠 裕明

平成 25 年 8 月 6 日(火)に旭川市大雪クリスタルホールにて開催されました理事会・評議員会についてご報告いたします。会員構成は平成 25 年 7 月 25 日現在、個人会員数 434 名(基礎 179 名、臨床 229 名、その他 26 名)、団体会員 4 団体で、新入会 31 名、退会 42 名でした。学会雑誌は英文誌 JOURNAL OF SMOOTH MUSCLE RESEARCH(第 48 巻)が 4 回、和文誌である日本平滑筋学会雑誌(第 16 巻)が 2 回発刊され、それぞれ 460 部余りが郵送されましたが、英文誌が第 49 巻より電子ジャーナル化となり、和文誌は残念ながら第 16 巻をもって廃刊となりました。

元編集長の鈴木光先生が理事を退任され、評議員 13 名の再任が承認されました。

春間賢財務委員長からは平成 24 年度の収支報告と平成 25 年度の予算が発表され、会員の皆様のご協力のもと会費納入率が向上、支出を極力抑えた事により、多額の寄付金に頼らず健全に運営できるようになったと報告されました。

名誉会員に佐々木大輔先生、大泉康先生、特別会員に菊池裕先生が推戴され、稲森正彦先生(横浜市立大学)、喜多紗斗美先生(福岡大学)、平野勝也先生(九州大学・現・香川大学)が新評議員として承認されました。選挙にて新基礎系理事には高井章先生(旭川医科大学)、新監事に峯徹哉先生(東海大学)、第 56 回総会副会長に小林誠先生(山口大学)が選出されました。また、第 56 回総会会長の峯徹哉先生から平成 26 年 8 月 6 日(水)～8 月 8 日(金)に新横浜プリンスホテルで開催予定である旨の説明がありました。

会員の皆様のご協力をもって運営を続ける事ができ、心より感謝を申し上げますとともに引き続きお力添え下さいませようよろしくお願い申し上げます。

最後の栗山 熙賞決まる

栗山 熙賞は、故 栗山 熙先生の遺徳を偲び、平滑筋及びその関連領域の若手研究者の研究奨励を目的として設立され、2005 年の第 1 回から 2013 年の第 9 回までに計 23 名の方が受賞されました。そして、今回第 10 回ではお二人の方の受賞が決まりました。

齋藤寿郎氏

Dept. of Cell Biol & Mol. Medi., Rutgers New Jersey Med. Sch. (博士研究員)

【研究業績】 Saito T, et al. Pivotal role of Rho-associated kinase 2 in generating the intrinsic circadian rhythm of vascular contractility. *Circulation* 126, 104-114 (2013).

田口久美子氏

星薬科大学医薬品化学研究所(助教)

【研究業績】 Taguchi K, et al. G Protein-coupled receptor kinase 2, with β -arrestin 2, impairs insulin-induced Akt/endothelial nitric oxide synthase signaling in ob/ob mouse aorta. *Diabetes* 61, 1978-1985 (2012).

本賞は規定により本第 10 回で終了致します。これまでのご支援に心より感謝申し上げます。

第 9 回栗山 熙賞を受賞して

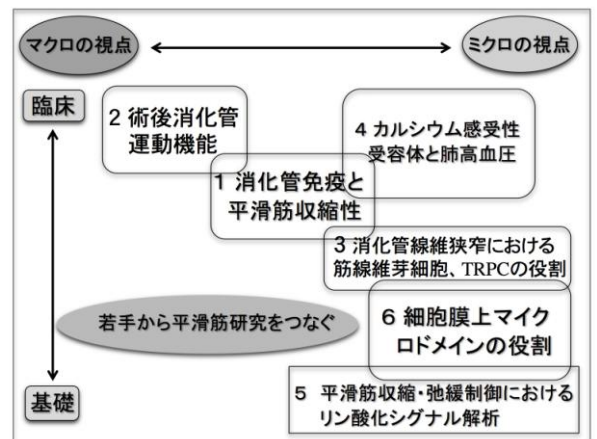
金城学院大学 薬学部 山村 彩

この度は非常に名誉ある「第 9 回栗山熙賞」を受賞させて頂き、大変光栄に存じております。私の平滑筋研究は、今泉祐治教授(名市大院薬)の研究室に所属したことから始まり、鈴木光教授(名市大院医)の御指導の下で学位を取得しました。薬剤師として臨床経験を積んだ後、Jason X.-J. Yuan 教授(イリノイ大シカゴ校医)の研究室で受賞対象となりました「肺高血圧症とカルシウム感受性受容体」に出会いました。現在もこの研究を進めております。この受賞を励みにして、今後も平滑筋研究に邁進していきたいと思っておりますので、御指導と御鞭撻の程、宜しく願い申し上げます。最後に、日本平滑筋学会栗山熙賞選考委員ならびに関係の先生方に深謝申し上げます。

第 9 回栗山 熙賞は瓦林靖広(松山赤十字病院、福岡大学医学部)、山村 彩(金城学院大学、イリノイ大学)両氏に決まり、受賞講演が第 55 回日本平滑筋学会総会(2013/8/8、於旭川大雪クリスタルホール)にて今泉祐治先生の司会で行われました。山村先生より受賞のコメントを頂戴いたしました。

－日本平滑筋学会「若手の会」設立記念シンポジウムを終えて－

第 55 回日本平滑筋学会総会にてとり行われました「若手の会」設立記念シンポジウムについてご報告申し上げます。「若手の会」は、日本平滑筋学会を若手から盛上げていくことを目標に設立され、「若手から平滑筋研究をつなぐ」をメインテーマに掲げています。そのような中、今回の設立記念シンポジウムでは、古くからの日本平滑筋学会の重要テーマであります基礎と臨床との融合を縦軸に、本総会のテーマであった平滑筋研究におけるマクロの視点、ミクロの視点を横軸に配置し、「臨床から基礎へ」「マクロの視点からミクロの視点へ」という方向性の観点から若手の会シンポジウムを計画致しました。



まず(1)「消化管免疫と消化管平滑筋収縮性変化に関する研究」(九州大学・伊原栄吉)に始まり、(2)「臨床から紡ぐ平滑筋研究:術後消化管運動回復における術後硬膜外腔への麻薬投与の効果に関する研究」(東京慈恵医科大学・仲吉朋子)、(3)「クローン病などの慢性炎症に伴う消化管の炎症・線維化狭窄における線維芽細胞 TRPC チャンネルの制御機構に関する研究」(福岡大学・倉原琳)、(4)「カルシウム感受性受容体と肺高血圧症:カルシウム感受性受容体を肺高血圧症の新規治療の標的とした研究」(金城学院大学・山村彩)、(5)「平滑筋収縮・弛緩制御の分子機序の解明を目指したリン酸化シグナル解析:ミオシン制御軽鎖の二重リン酸化を伴う収縮及びリン酸化に依存しない収縮反応に関する生化学的な研究」(旭川医科大学・竹谷浩介)とつなぎ、最後に(6)「血管平滑筋異常収縮の病的シグナル伝達における細胞膜上マイクロドメインの新規機能:血管平滑筋異常収縮におけるマイクロドメインの役割に関する研究」(山口大学・加治屋勝子)で締めくくりました。

6 人のシンポジストのそれぞれの平滑筋研究の位置づけを考えた場合、単独の研究では、臨床、基礎、マクロの視点及びミクロの視点のすべての領域を網羅することは到底できませんが、たとえ若手の研究であっても、平滑筋をテーマとする研究は互いになにかしら繋がっており、互いに刺激、協力し合うことで、この後の平滑筋研究が発展していく可能性を感じました。また本シンポジウムにおいては、会場からも沢山の質問を頂戴し、大変活発な議論が繰り広げられました。シンポジウムに関するアンケート調査によれば、会場の約 85 %の方が「大変満足」または「満足」と答えて頂き、「若手の会」に対して、沢山の激励のお言葉を頂きました。アンケートにて頂戴しました厳しいご意見も、次に繋がる建設的なものばかりで、全体を通して皆様の熱いご支持を頂いたと感じております。ただ1つの問題点として、今回のシンポジウム参加者の約 70 %が 50 歳以上であり、次回はもっと多くの若手研究者に参加してもらう為の工夫をすることが、今後の課題となりました。詳しいアンケート結果は、日本平滑筋学会のホームページにて紹介しております。そして大変嬉しいことは、今回の総会を終えて、新しく 3 人の「若手の会」会員が増えることになりました。会員は随時募集しておりますので、ご興味がございます方は若手の会事務局 (旭川医科大学・竹谷浩介: ktakeya@asahikawa-med.ac.jp)までご連絡頂ければ幸いです。

最後になりますが、この場をお借りしまして、本シンポジウムを開催する機会を快く与えて下さいました、本学会理事長・春間賢教授、本総会会長・高井章教授、そして本シンポジウムに参加してシンポジウムを支えて下さいましたすべての会員の皆様に対し、「若手の会」会員一同、深く感謝致します。

－若手の会からのお知らせ－

第 56 回日本平滑筋学会総会にて開催されます「若手の会シンポジウム」について御紹介させていただきます。第 2 回目となりました今回は、「若手から平滑筋研究をつなぐ」をテーマに、現在、国内外でご活躍される若手研究者を集め、若手の会シンポジウムを企画致しました。本総会のテーマであります「平滑筋研究における基礎研究と臨床の融合」の観点から、基礎研究分野から 3 名、臨床研究分野から 3 名、合計 6 名のシンポジストによる「基礎研究と臨床の融合を目指した」シンポジウムを予定しています。司会は、旭川医科大学・竹谷浩介(基礎研究者及び男性研究者代表)と東京慈恵医科大学・仲吉朋子(臨床研究者及び女性研究者代表)が担当致します。また今回の若手の会シンポジウムの目玉として、峯徹哉会長のご好意により、若手研究者がより楽しく参加できるようにと、会場にお菓子やドリンクが用意された「スイーツセミナー」となっております。乞うご期待です。第 56 回日本平滑筋学会総会・若手の会シンポジウムに是非ご参加くださいませ、よろしくご期待申し上げます。(文責 若手の会会長・九州大学病態制御内科・伊原栄吉)